

おモンさんに教えていただきました



(若き頃のおモンさん)

アンコ文化保存会では、地域の皆様からアンコさんまつわるエピソードや体験談をお聞きしています。今回、美人アンコさんが多いといわれる野増地区の坂上モンさん(大正11年生まれ)にお話を伺いました。

昭和になると三原山登山道には、お茶屋さんが並び、普段は針仕事や畑仕事をしていたおモンさんも、観光シーズン(当時は春・秋)の忙しい時期にお手伝いに出るようになりました。おモンさんは夕方、山(茶屋)から下りて元村(現、元町)に寄り、椿油や明日葉の佃煮、牛乳などを仕入れ、翌朝夜が明けないうちに山に登り、お客様をお迎えしました。

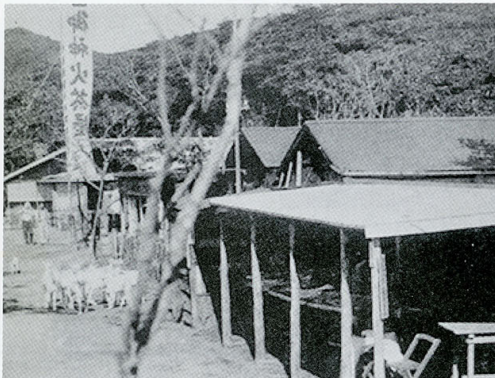
昭和10年代、豊島屋椿園から始まり、踊茶屋、一合目のさくら茶屋、二合目ちから茶屋、三合目たちばな茶屋、四合目娘茶屋、五合目地藏茶屋、歌の茶屋、六合目椿茶屋、見晴茶屋、七合目鶯茶屋、九合目御山茶屋、頂上の御神火茶屋、火口茶屋などがあったそうです。

当時のソーメン絞り手拭いの
被り方を教えていただきました



95歳になられたおモンさんの願いは大切にしている椿の木や畑を、家族につなげていきたいとのこと。いつまでもお元気に私たち島の女性にも、アンコの伝統を伝えていってください。ご協力ありがとうございました。

◇昭和初期の三原山



◇お茶屋のアンコさんたち (昭和20年代)



◇山頂への細い道



当時は木陰にベンチを並べただけの簡素なお茶屋さんから、馬を休ませる大きなお茶屋さんまで様々ありました。早朝港に着いたお客様は、旅館や休憩所で船旅の疲れをひと休みさせてから、藁草履で三原山までの細い道を登りました。

アンコさんの素朴な美しさは絵葉書やブロマイドなどとなり、踊りや唄でのおもてなしは、訪れる観光客を魅了し、何度も来島される方も多かったそうです。

昭和29年バス道路の開通により、徒歩での登山も少なくなり、三原山登山道のお茶屋さんも次第になくなっていきました。

